

## パリの女の子の生き方を映画にするヴィルジニ・テヴネ監督

いつもオシャレで女の子にとって刺激的なフランス映画を作ってくれるのが、フランスの女性監督、ヴィルジニ・テヴネです。1957年生まれで、14歳のころから映画に出演。女優だけでなく、イラストレーター、エッセイストとしても活躍。しかも、中国語も話せるというから、まさにマルチ・アーティストなのです。1984年に監督としてデビュー、『ガーターベルトの夜』を、1987年には『エリザとエリック』を発表し、日本にも多くのファンを作りました。この『サム・サフィ』は、テヴネ監督の3作目の作品で、4億8000万円をかけた力作。バルセロナ、パリ、ブルターニュと、エキゾチックな舞台が楽しめ、キャストの面白さが、いつもながらササガです。多くの中から選ばれた主人公エバ役のオーラ・アッテカ、ペーター役のフィリップ・バートレットは、ともにテヴネ監督の分身といったところ。ものすごく新鮮な存在です。



↑パリでフツの生活始めるエバをとり巻く人々。フツの恋人（右）、みんなどこか変な、アブナイ雰囲気。右がエバの新しい恋人、左の男はエバの父。エバは両方、左は有名な監督の甥（フツの父）です。



↓自分の生き方が嫌になった時、エバはブルターニュの海へ行って、ひとり自然と会話をする。奇妙なヨガをする男と出会ったり、海岸にある小屋を自分の好みの住みかに変えてみたり、不良娘からフツのママアゼルへと変わっていく……。



←不良少女からママアゼルへと生き方を変えようとするエバの強い味方は、アーティストで、しかもホモセクシュアルのペーター。しかし彼もまた、エバと出会うと、変化し始める。こくフツに女の子と恋をし、結婚して、子供を作り、フツの生活をする事へのあこがれを抱くようになる。そして、エバのお腹のベビーの父親になることを強く決意する。

→テヴネ監督は、いつも奇妙なもの、グロテスクなもの、アートのものが大好き。バルセロナ時代のエバの働いていたサーカス小屋には豹女や生首女などが見せ物として登場して、とっても面白不思議な世界を見せてくれるのです。



撮影 / Terumi Takano

問題やエコロジ問題がうんぬんされる今日このごろ、何が今、女の子にとって一番刺激的で大切にしたいって話じゃないことなのか、エバという存在を通して語られ、まさに90年代に生きる女の子の等身大が描かれます。この映画を観たら、誰もが「エバは自分によく似てる」と、そう思うに違いありません。

（ストーリー）25歳のエバは、バルセロナに遊びに来ている、ちょっと悪い女の子。不良のホセと一緒に暮らして、彼女もサーカス小屋で、大胆にストリップをしたり、自由気まま。このジプシーの生活が何よりお気に入りなのだ。しかし、麻薬に手を出そうとしていたホセに嫌気がさし、突然、フツの生活にあこがれを抱くエバ。市民権や選挙権、自動車の運転免許を持つて、堅い仕事をする自分について、何てシニカルか？と、そのこくフツの市民になるべく、エバの冒険が始まる。住み込みの家政婦になったり、市役所の窓口担当になったり、とらばーゆです。その間、ホモセクシャルのアーティスト、ペーターと仲よくなる。ペーターはエバの存在によって、次第にフツの男に目ざめ出し、フツの恋愛、フツの結婚願望を抱くのだが……エバとペーターのフツを探しをめぐるパリの「原色スケッチ」とも言うべき、一風変わった面白ストーリーです。

いい映画なら必ずヒットする——のは、当然なのですが、どうい映画なのかということを知って貰えないと、ヒットしないことも多いのが、映画です。

そのために配給会社は、雑誌、TVなどのマスメディアを使って、その映画の存在をアピールします。みなさんが何げなく見ている雑誌の映画欄や、映画に関する記事なども、少なからず配給会社のスタッフの宣伝活動によって、作られているわけです。こういった宣伝活動を行うプロフェッショナル志望の女性は今も多いようで、「サム・サフィ」を手がけるパリ映画にも、洋画配給ビジネスに関わりたいたい問い合わせが来る女性も、増える一方なのですが、「とらばーゆ」が応援する「サム・サフィ」の宣伝活動を、読者のみなさんも一日体験してみたいかですか？

宣伝活動の詳しい内容については次回誌上でもご紹介しますが、異次元の、あるいは「非日常的体験」であることは間違いなさそう。

● **仕事内容** / パリ映画の宣伝スタッフと同行していただき、TV局や、雑誌社に行つて、映画作品の売り込みを一日体験していただきます。活動期間は92年3月4日（日）～4月17日（日）まで。体験期間は8名。体験者は、特製スタッフTシャツを進呈いたします。

● **応募方法** / 官製ハガキに、応募の理由（200字程度）、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記し、〒104中央区銀座8-4-17（株）リクルート「とらばーゆ」編集部「サム・サフィ」一日体験係へ。締切り：2月15日消印有効。①とらばーゆ編集部 佐々木（03-5575-6288）

## 2 映画の宣伝活動の1日体験スタッフになつてみたい!?

● **応募方法** / 官製ハガキに邦題タイトル（タイトルは一枚に1題限り、1人何枚応募も可）住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ、「とらばーゆ」編集部「サム・サフィ」係まで（あて先は左記参照）。締切り：平成4年1月20日消印有効。

- 2/7発売の「とらばーゆ」では、
  - ①タイトル決定の発表
  - ②「サム・サフィ」の日本での第1回めの試写会への招待
  - ③引き続き、1日体験スタッフ募集のお知らせ
- を掲載する予定です。乞うご期待！